

子供の自由表現に就て

附屬幼稚園 村上露子

所謂幼稚園遊戯も、從來の不自然な大人の模倣から開放して、純朴な子供の氣持ち其の儘を表し度いもので御座います。子供の豊かな想像力を生かして、自由表現の餘地を與へたなら、もつこ子供らしい世界が發展し、みんなに興味深く、楽しみながら、然も一杯の力を出して致す事で御座いませう。

今夏の戸倉先生の新鮮味の溢れた遊戯講習も、殊に子供の自由表現に重きを置かれました。其の中で、早速子供と一緒に致して見ましたもの、一つ二つを御紹介申し上げます。

年少組の子供で、四月以來、少し宛そう云ふ機會を與へて參りましたが、實際に取扱つて見ますと、案外な事が出来なかつたりして、大人の考へ通りには必ずしも行かない事が御座います。其の點、指導の方法として考へる餘地が

御座いませう。子供が自由に表現するに至るまでの導びきとして、きまり悪がつたり、尻込みしたりせぬ様、習慣付ける必要があるか存じます。最初は最も子供の生活に關係の深いもの、親しみのあるものを扱ひます。そして、子供にもすぐに表現出来る様な、やさしい、簡単なものから致しました。

「動物園の象」。

は誰れでも出来ます。動物園で見た象を先づ思ひ出させて、次に鼻だの、太い脚だの、歩き方等を思出させます。「好きな所を、のそ／＼象になつて歩ませう」。ご申しますと、喜んで床の上を這ひ出します。長椅子を續けて、其の上を一人宛渡つたりして、もう汗びつしよになるまで致しました。(床がきれいに拭いてある事を條件として)

此の他動物は殊に親しみが多く、子供等は表現し易いら

しく、兎さか、龜さか、狸、あひる等も、したいものを聞いて致しましたが、よく特徴を表す様になりました。(曲は其の氣分に合つたものなら何でもいゝかき存じます)。こゝで、兎さか龜の競争をするのもなか／＼面白う御座います。外でもよし、内でもよし、一列宛に縦に並べても、又は二つの圓になつても、個人競争でも、團體競争でもよろしく御座います。龜同士でも、兎同士でも、代り／＼にでも、又其の他のものでも、ちよつと工夫すれば面白く遊ぶ事が出来ます。

「来い／＼」。

は、一つの事から聯想されるものを取扱つたので、これは初めから表現するものゝ順序が定まつて居ります。講習でお教へ頂いた時には、先づ皆手を連いで一曲の終りまで歩き、お父さん、になる人が、「お父さん」を表現して真中に出て来る。他の者はそれを拍手して見て居る。曲が終るゝ又連手して歩き、次にお父さんはお母さんと呼ぶ。呼ばれた人はすぐに出で、「お母さん」を表はす。……云ふ様にして、お母さんから子供、子供から犬、猫、鼠、其の

後一つは自由に、又お父さん……云ふ順序で繰り返へすので御座います。これなら子供にも簡單に出来ると思つて致して見ました處、七つの順序通りにするのが六ヶ數く、幾度しても途中でめちやく／＼になつてしまひます。呼ばれた時、ま／＼して居たり、一人するのが嫌だつたりで、だめになつてしまひます。それで、少し様子を變へて試みて見ました。全體の子供を二組に分けて、(便宜上、男女兒に)初めは全部の男兒がお父さんになり、大體二曲の中に好きな處を歩いて參り、其の間女兒は腰掛けて手を打つて見せる。次に、お父さんはお母さん(女兒)を呼びます。そうして二組の子供が代り／＼に出で行つては色々表現する様に致しましたところ、順序もすぐに覺えてしまひ、一人々々が、なか／＼それ／＼の様子をよく表して居ります。一人ぢや決して出来ない様な子供も、お父さんの仲間に入つて、そつくり返つて歩き乍ら、煙草等吹かして居るのも見ます。犬さ猫さ鼠の區別も、とても上手に致します。だん／＼馴れて參りますさ、こゝ云ふ様にして、一人宛でも出来る様になりました。

「たねまき」。

ミ云ふのは、丁度秋晴れの一時を、青空の下でゞも出来る様な、極く、自然な趣のあるもので御座います。お百姓が、畠を耕し、種を蒔きだんぐ世話をして、花が咲き、實が成り、やがて收穫するまでの様子を表したもので、随分いい題材かミ存じます。部屋の一隅を畠に定め、子供等にお話しをして、順序や動作を考へさせました。お百姓になりたい人に、種になり度い人、蝶々になり度い人を初めに分けて見ました。先づ蝶々だけを残して、他はお百姓も種の人と一緒に、畝を擔いで畠に行き、一生懸命に耕します。いゝ頃に引揚げて、元の場所に歸り、種を持つて又畠に來ります。元の場所に誰れか一人居て、種だの、お道具等を皆に渡してあける事に致しました。其の方が實際の感じによりよく出る様で御座います。バラ／＼と種を蒔き初めるミ同時に、種になる子供は小さく伏して、種を表します。丁寧に其の上から土を被せたりして、水を取りに參ります。其の間に、種は少し宛芽を出して來ます。バケツや如露に水を入れて持つて來ました。猿蟹合戦のお話しでも思出し

てか、「早く芽を出せ柿の種……」等ミ云つてゐる子供も御座います。だんぐ／＼芽は大きくなつて、やがて花を咲かせます。蝶がひらく／＼飛んで參ります。其の中花も終りになつて、實を結びます。お百姓は、鉢だの籠だのを持つて、實を取りに來ます。——そこまでは、誠に自然の中に運びましたが、其の後、木になつて立つてゐる子供のそこから中から、やたらに面白がつて實を取りますので、中には其の子供こぶざけたりして、折角の今迄のいゝ氣持ちを毀してしまひました。それさもう一つ、實を取つて、皆歸つてしまつた後の木は、まるで冬枯れの様な感じがして、變なもので御座います。何ミかならぬものかミ、戸倉先生に御相談申上げましたところ、「實を取る時には、木になつた子供も皆一緒になつて、假想の實を取つたらさうか、そして、歸る時も、皆一緒に引揚げてしまつたらいゝでせう」。この事に、成程ミ、早速に子供にもよく話して其の通りに致して見ました。今度は氣持ちよく出來ました。又其れから何度でも繰返す事も出來ます。今までの中で、一番子供等は好きな様で、この曲を弾きますミ、目を輝かして、喜んで

「幼児教育にも一業恵心主義が必要」の題の下に、牛島先生が幼児教育振興の必要を叫んで居られますが、私のやうに、自然から遠ざけられた都市幼稚園に居ります者には、都市幼児なるが故に二重に幼児教育振興の必要を痛感して居ります、文化の過重を申しますか、成人のうける文化の恩典を（その爲に幼児としては必要な自然からますます遠ざけられ）逆にかうむつてゐる都市幼児の爲に、私は都市幼児の幼稚園義務制を叫び度いと思て居ります、六大都市長會議でも大都市の特別都制が問題になつてゐる様です、國家は今非常時に際してゐます、次代の國民の基礎教育の爲に、幼児教育又幼稚園教育は、その内容にも又教育行政にも一躍革新の必要が大いにあるのではありませんか。最後に一言し度きは「ミテ先生は主任保姆の園長を援けて責任を果す意氣不充分を申されました、自分の事は自分にはわからぬ事が多々あります、何卒今後も此の様に御指示さすれば自ら顧みて一層努力を致す覺悟であります。

私共は十一月の健康週間を目前にひかえて、より健康號

を讀ませて頂いた事を深く感謝致します。健康は秋から冬へ、そして芽生えの春へミつゞきませう。やがて木枯の吹く頃、私共はかよわい幼児の皮膚を護るに同時に、遙に先生方ご同志の方々の御健康を祈ります。

（六四頁より續く）

居ります。これは、ほんみに靜かな氣持ちで取扱ひ度いミ存じます。大勢でするよりも、全體を幾つかに分けて少人数でする方が、氣持ちも落着いていゝ様に存じます。

以上はほんの一、二の例に過ぎませんが、實際に致して見て、子供に教へられながら、自分の組の子供に合ふ様に、これでも色々工夫致しました。適當な題材を選び、折角のいゝ材料をその幼稚園、その子供等に合ふ様に生かして使ふのこそ、私等の役目で御座いませう。

何かの御参考になれば幸せに存じます。